

進路だより



2022年10月11日(月)
福島県立あさか開成高等学校
進路指導部 第5号

進路指導部長より

下記の問題は、私が最近読んだ書物を小論文の問題として作成したものである。
興味のある者は挑戦してみてください。

☆ 次の文章は、桜井章一著作『運に選ばれる生き方』の一節である。以下本文を読んで、後の問いに答えよ。

信念を持ってなにごとかを成し遂げた人を見ると、多くの人が、「信念」というものは尊くて大事なことなんだな、と感じるかもしれない。だが、信念を持って何かを成し遂げた人と、途中で挫折してしまった人では、どちらが多いのか。

私は、信念を持って何かを成し遂げた人は非常に少ないと思っている。環境や自分自身の変化から信念を抱き続けることが難しくなったり、信念があるゆえに壁にぶつかって挫折してしまったりするケースが多いはずだ。むしろ、信念を持つことは生き辛さや自由を縛り、マイナスの結果になる可能性が高いとすら感じている。こう言うと、途中で信念を挫折させることがあっても、信念を持つことは生き方として美しいのではないか、という反論がきっとあるだろう。

しかし、それは信念という言葉が持つイメージにとらわれているのだ。**信念とは、固定観念を美しく言い換えた言葉**といってもいい。だから信念にこだわっていると、変化に柔軟に対応できなくなり、運の流れに乗れなくなってしまふ。

信念でなければ、では何を持つといいのか？ 私は「遊び感覚」だと思っている。遊び感覚があれば、仕事も人生も楽しいものになるし、人間としての膨らみも出てくるものだ。

信念は思考や行動に硬さをもたらすが、遊び感覚は反対に柔らかさをもたらしてくれる。

柔らかさは、人が変化していくうえでもっとも重要なもののひとつだ。人は歳を取るにつれて体も心も硬くなっていく。自然界では柔らかさを失うということは「死」を意味している。生命の最後において、変化することを否定し固まった状態は「死」にはほかならない。

それを考えれば、「柔らかい」ことがどれほど大事かわかるだろう。固定観念や信念といったものに縛られず、柔らかな感性と思考を持って生きる。それこそが変化していく可能性を多く孕み、「運に選ばれる」生き方だと私は考えている。

チャンスや運の存在に気づくには、日々の生活の中でいろいろなことに「気づく感覚」を磨くことだ。

たとえば、通勤や通学で何気なく歩いている道にどんな樹があるか、どんな建物があるか、どんな看板があるかといったことを細かく認識している人はあまりいない。ここにこんな店があって、ここはこんな家が建っているという具合に、ところどころにある目立つものだけを決まったパターンで覚えているだけで、それ以外のものは何度その道を通ろうと意識されないようだ。

だが、細かく気をつけてみれば、発見はいくらでもある。私はボンヤリしていると見落としそうなものを、対象が街中であれ人間であれ、注意深く見て気づくということを自分に課していた。

人については、「この人のこういう仕草やクセはどんな気持ちを表しているんだろう」などと推察したり、表情から何を考えているのか読み取ったり、さりげない観察を習慣的にしていた。

今挙げたことは気づきの感覚を磨くひとつの方法にすぎない。日常生活は、それこそたくさんの細かいことから成り立っている。意識を向け、そこから気づきを得られることは無数にあるはずだ。そうやって「気づく感覚」を普段から磨いていけば、チャンスの女神の前髪をみすみすつかみ損なうなどということとはしなくなるものだ。

問 傍線部「今挙げたことは気づきの感覚を磨くひとつの方法にすぎない。」とあるが、「気づきの感覚を磨く」上で大切なことはどのようなことか。本文の内容を踏まえて、あなたの考えを600字以内で論述せよ。(模範解答は裏面に記載してあります)

☆ 桜井章一『名言』

運の流れを作っていくのは自分なんだという気持ちを持つことです。運が悪ければそれを自覚して修正する努力をすればいいのです。逃げるのではなく戻るといふ選択肢があることを忘れてはいけません。何よりも気分よく生きる時間を長く持つことが一番です。

模範解答

人生において、人も羨むような非常にラッキーな出来事に遭遇する人がいる。このようにある短い期間にツキが集中したり、思いもかけぬ大きな運に恵まれたりする例は、世間でよく聞く話だ。また、勢いに乗って一時、世間から熱い注目を集めていたのに、いつの間にか表舞台から消え去っていく人もいる。そんなとき、人は「一生分の運を使い切ったな」というような感慨を抱くものだ。果たしてこれらはたまたまの出来事なのか。

私は物ごとの結果には必ずその原因となるものがあり、偶然性は極めて少ないと考える。失敗や不遇を外部的な環境のせいにするのではなく、原因がどこにあるのか。まずはその原因を究明するための強い意志を持ち実行に移す。次に総合的にさまざまな事象を振り返り、その原因を検証し分析を行う。このような過程を繰り返し継続する。では具体的にはどうするべきか。

その方策として、物事に対して先入観に捉われず柔軟で幅広い考え方を持つ。そして人との付き合い方、生活の仕方、取り組み方などそうしたものに何か問題がないか。また、傲りから人に対して誠実さを失くしていないか。人間関係を疎かにしていなかったか。今の状態に安心してしまっていて変化していく努力を怠っていないか。このような普段の日常生活においてそれ相応の理由を探し当てる。言い換えれば気づきの感覚をもつことが肝要だ。このような行動を常に心掛けることが、自らの生きる糧になると考える。

(597字)

がんばれ25期生!! ~3年生の進路活動が本格化しています~

前期期末考査も終了し、3年生はいよいよ受験に向けての準備が本格的になってきました。出願書類や志願理由書、小論文対策・面接練習など、それぞれの指導担当の先生のところへ熱心に通う姿がよく見られます。

小論文指導では、うまく書けず担当の先生から駄目出しされ落ち込んだ顔を見せても、翌日にはまた書き直して提出にやってくる。毎年、今の時期はそういう3年生が多くいます。25期の皆さん、これまでの先輩も同じでしたよ。苦しんで苦しんで勝ち取れるのが“合格”です。何より、本気になって取り組む姿はカッコいいです!!ぜひ1・2年生に先輩達の頑張る姿を見せつつ、応援してくれた方々に良い結果を報告できるよう頑張れ。

また、1・2年生もいずれこのように努力しなくてはいけない時がやってきます。その時のために今のうちから少しずつでもさまざまな力(知識・思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力など)を身につけておくことが大切です。まずは進路指導部長からの課題にチャレンジしてみてください。 「いつからやるの?」 - 「今からでしょ」